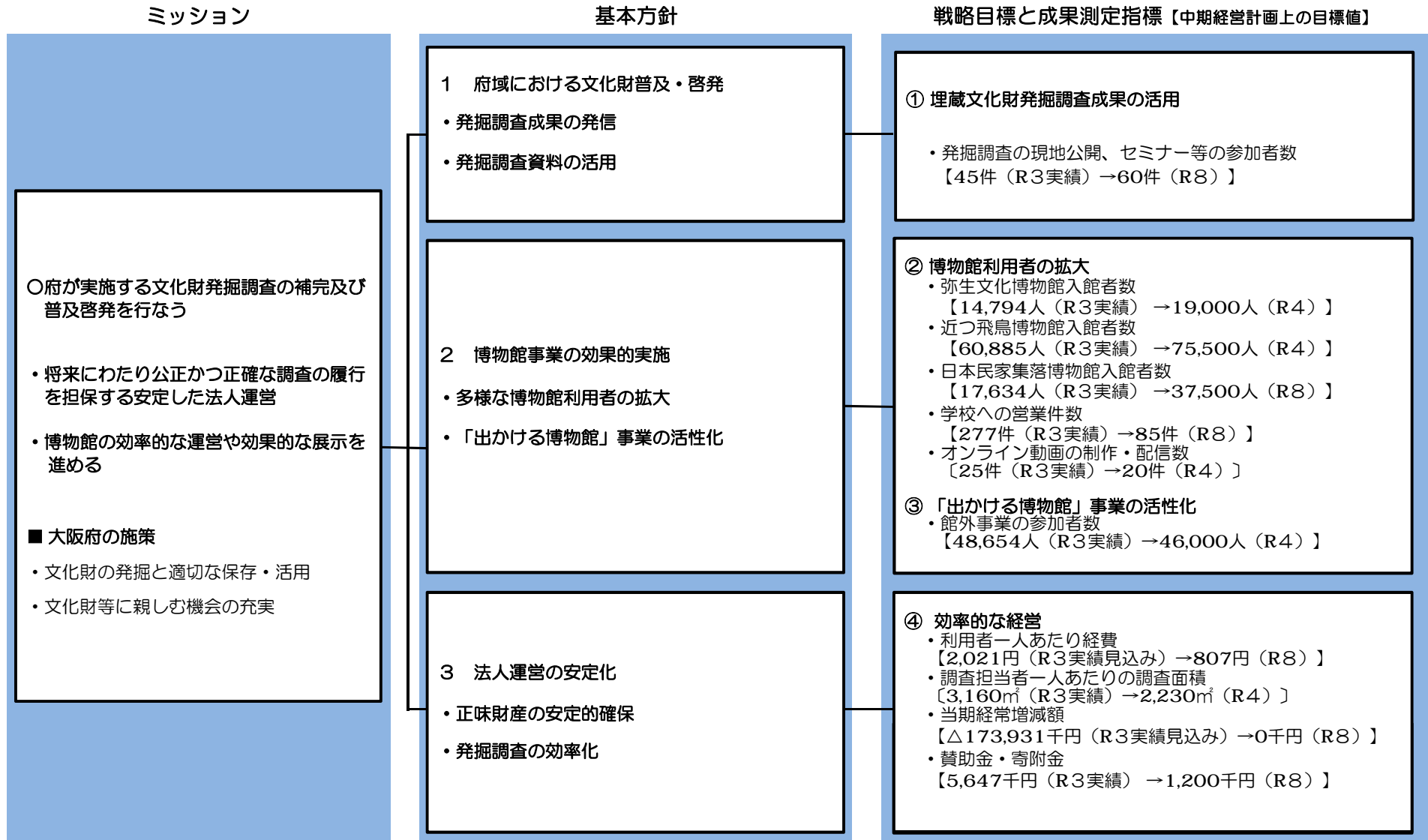


法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
作成 (所管課)	文化財保護課

## ○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
-----	-------------------

○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 【見込値】	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
										R4 目標値	最終年度 目標値		
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の参加者数		人	35	14,774	14,900	16,838	—	—	—	—	—	
	発掘調査の現地公開・セミナー等の実施件数	☆	件	—	(41)	—	(45)	48	35	48	60	中期経営計画による。	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項			
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>当法人では、令和4年度に策定した中期経営計画のビジョンとして、以下の3本柱を設定している。</p> <p>①【文化財を後世に】⇒ 遺跡の発掘から歴史の解明 ②【文化財を身近に】⇒ 地域の歴史学習への寄与 ③【文化財で心を豊かに】⇒ 「温故知新」で文化力向上</p> <p>具体的には、①「高質な発掘調査を継続して実施し、開発によって失われる遺跡の正確な記録を残す」、②「文化財資料活用事業や博物館管理運営事業を通して、府民や明日を担う子ども達に文化財の大切さや魅力を具体的に伝える」、③「文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを府民に伝える」ことを目指している。</p> <p>人口減少社会の到来が現実となる中、平成31年4月に施行された改正文化財保護法では、これからの文化財保護行政は、従来までの保存重視から保存と活用を一体的に推し進め、地域社会全体で文化財を次世代に継承していくための取り組みを行う必要があることが強く打ち出され、地域固有の文化財を通じて、住民が地域に愛着や誇りを見出し、個性的で活力のあるまちづくりに寄与することが期待されている。当法人が約半世紀にわたって手掛け、蓄積してきた埋蔵文化財の調査成果は、府民にとって大切な地中に埋もれた地域資源であり、これを府民に伝えていくことは、当法人の大きな使命の一つであると考えている。</p>										<p>発掘調査現場の現地公開の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地説明会の開催</li> <li>・地域住民を対象とした現地公開の実施</li> <li>・地元学校の見学受け入れ</li> <li>・HPやSNSを活用した発掘調査成果の発信</li> </ul> <p>発掘調査資料の活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府内自治体と連携した速報展示や講演会等の実施</li> <li>・府立博物館(指定管理)における調査成果の展示および講演会の実施</li> <li>・泉佐野市立歴史館いずみさの(指定管理)における展示企画での積極的活用</li> </ul>		
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>課題: コロナ禍の影響がさらに続いた場合、現地説明会や講演会・講座といった参加型の企画で実施の見送りや参加人員数の制限を余儀なくされることが想定されるほか、状況が落ち着き、事業の実施が可能となった場合においても、心理的影響も手伝って、参加者の出足が鈍る可能性が高い。</p> <p>改善点: 国や大阪府の感染対策・要請にしたがい、感染防止対策を徹底して参加者が安心して参加できる環境を整えたとともに、現地説明会などの開催が困難な場合においては、ドローンによる空中撮影画像を多用した臨場感のある動画を制作し、YouTubeを活用してホームページ上でWeb現地説明会を開催するなど、ウィズコロナ時代を見据えた新しい文化財資料活用事業のあり方を確立する。</p>										<p>学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘現場への近隣小学校の見学誘致</li> <li>・高校生の考古学体験の受け入れ</li> <li>・大学との連携による考古学関連の講義</li> </ul> <p>民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近鉄文化サロンと連携した連続講演会を実施</li> <li>・ハルカス(近鉄百貨店本店)の「まなほスタジオ」における子ども向けワークショップの実施</li> </ul>		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府内自治体や民間企業等の関連団体との連携をさらに強固なものとし、当法人が培ってきた企画力と専門分野をもつ豊富な人材、民間企業がもつ広報力とネットワークを相互に活用し、Win-Winの関係で事業を進める。</li> <li>・大阪府内の博物館施設等で実施する展示事業等を通じて地域の文化財の周知に寄与する一方、一般府民が多く集まる大阪市や堺市内においても積極的に講演会等を行う。</li> <li>・コロナ禍の影響が長引くなか、当法人が実施する文化財資料活用事業においても、インターネットでの動画配信など、これまでの方法とは異なる手法で発掘調査成果等の情報発信を行う。</li> <li>・令和元年度に世界文化遺産に登録された『百舌鳥・古市古墳群』について、府民の興味・関心を一層呼び起こし、世界にも認められた普遍的価値への理解が深まるよう、大阪府や関連自治体と連携した事業を推進する。</li> </ul>										<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なニーズに合わせた情報発信</li> <li>・ホームページなどによる情報発信機能の充実</li> <li>・YouTube等による動画配信</li> <li>・SNSを活用した情報発信</li> <li>・報道提供によるマスメディアによる情報発信</li> </ul> <p>百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府施策への協力</li> </ul>		

## II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R4目標設定の考え方 (数値の補綴) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
②博物館利用者の拡大	博物館入館者数												
	学校への営業件数(プロセス)		件	3	163	170	277	↓250	3	250	85	中期経営計画による (R1年度実績ならびに施設改修工 事に伴う弥生文化博物館の臨時休館を 踏まえて設定)	・学校訪問による継続的な誘致活動の実施 ・現場教師を対象とした博物館体験プログラム等の説明による利 用促進
	オンライン動画の制作・配信数		件	5	(11)	24	25	↓20	5	—	—	R3年度の配信実績ならびにR4年度 の事業計画と施設改修工事に伴う弥 生文化博物館の臨時休館を踏まえて 設定	・学芸員による展示会ならびに展示品や各種行事の解説動画な ど、オンラインを活用して博物館の情報を効果的に発信すること で、各博物館の魅力を高め、来館意欲を喚起
	i 弥生文化博物館			8	14,880	i 19,000	×14,794	19,000	8	19,000	—	中期経営計画による (H28～30年度実績)に基づく現行指定 管理委託申請数値ならびに施設改修 工事に伴う臨時休館を踏まえて設定)	i ・施設改修工事に伴って開館が半年間に限られる中、唯一の考古学関連の展 示会として南関東地域の弥生文化を扱った特別展を28年ぶりに開催し、マスメ ディアやHP・SNSを通じて最新成果を広く普及しPRして来館を誘致 ・来館者と館長が自由に語り合う「弥生文化サロン」を開催し、新たな府民サー ビスを創出
ii 近つ飛鳥博物館		人	8	55,943	ii 60,300	60,885	75,500	8	75,500	—	中期経営計画による (H28～30年度実績)に基づく現行指定 管理委託申請数値)	ii ・法人設立50周年記念特別展として、共通の観点・テーマに基づく展示会を他 館と連携して同時開催し、関連するイベントを実施 ・博物館周辺の地元市町村や大学など、地域との協業による頼まれる博物 館施設の創出 ・インスタグラムを新たに開設し、従来までの考古学・古墳時代中心の情報とは 異なる側面からの情報を提供して新たな魅力・価値を創造	
iii 日本民家集落博物館			8	20,370	iii 21,900	×17,634	23,500	8	23,500	37,500	中期経営計画による	iii ・館内における四季折々の花々の開花状況やイベントの開催状況、展示民家 や民具に関連する情報を様々な媒体で発信し、博物館の魅力を広く周知	
③「出かける博物館」事業の活性化	館外事業の参加者数		人	5	36,197	36,500	48,654	50,500	5	46,000	—	R3年度実績ならびにR4年度の事業 計画に基づいて設定	・他の博物館・資料館との連携事業の強化 ・学校や民間企業、地方自治体とも連携し、出前事業や出張講 座、体験学習などを積極的に展開

## III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)		円	4	2,240	2,073	[2,021]	1,691	4	1,397	807	各博物館の利用者数目標とR4年度 当初予算(事業費)に基づいて算出・ 設定	・ホームページ・SNSなどインターネットによる情報発信を強化し、 新たな来館者層の開拓を行うとともに、府内外の博物館や商業施 設における館外事業を通じて博物館の知名度アップを図り、集客 増に繋げる
(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積		m	10	4,421	2,950	3,160	↓2,230	10	—	—	R4年度は小面積かつ掘削深度の深 い調査が主体となり、広範囲を効率よ く手掛けることができる案件が少な いことを踏まえて設定	・若手職員への発掘調査技術の継承を確実に行うとともに、支援 業者が有する測量技術などを援用しながら効率的に調査を遂行 することを踏まえて設定
(安定的財基盤の確立)	当期経常増減額		千円	10	▲117,590	▲130,487	[×▲173,931]	▲130,487	10	▲27,435	0	中部調査事務所撤去にかかる減価償 却費の積み増し分を目標値とすること で、実質的な収支相償を目指す	・埋蔵文化財発掘調査の事業確保に加え、日本民家集落博物館 事業において、来館者・施設利用者の増加を図り、収支相償を目 指す
(民家集落博物館展示民家保存修理のための自 主財源の確保)	賛助金・寄附金		円	4	1,026,581	5,900,000	×5,647,430	↓1,200,000	4	1,200,000	1,200,000	中期経営計画による	・コロナ禍の中、企業等からの賛助金の休止・減額が続くなか にあって、広報活動を進め、賛助金の提供再開・増額を働きかける

- 【凡例】
- ・☆はR4年度からの新規項目
  - ・×は目標値未達成
  - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
  - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
  - ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府文化財センター

## CS調査の実施概要

## ○令和3年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①弥生文化博物館利用者CS満足度調査 ②近つ飛鳥博物館利用者CS満足度調査 ③日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ④発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①弥生文化博物館利用者へのアンケート ②近つ飛鳥博物館利用者へのアンケート ③日本民家集落博物館利用者へのアンケート ④発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①弥生文化博物館「関西文化の日」および秋季特別展会期内の来館者 ②近つ飛鳥博物館「関西文化の日」の来館者 ③日本民家集落博物館の来館者 ④発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①446名 ②496名 ③400名 ④ -	①イベントおよび特別展開催時（年1回） ②イベント開催時（年1回） ③秋季期間（年1回） ④アンケート実施せず （現地公開未開催のため）

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>①コロナウイルス感染症拡大防止対策として実施していた音声ガイド等の使用休止に関する改善、コロナ禍において遠方から来館できない利用者からの要望等。</p> <p>②インターネット環境の構築や、それらを利用した解説や多言語への対応等。</p> <p>③展示民家のみならず、四季折々の花々を含めた空間や清掃等に対して高評価。イベントなど情報のネット配信の要望。</p>	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <p>①コロナ禍のため中断していた音声ガイド、さわれるコーナー等を10月から段階的に再開。非接触空中ディスプレイを増設し、コロナ禍におけるデジタル機器の安全な利用環境を整備。展示品解説動画を回数、内容ともに充実させ、facebook等においても詳しい告知を心掛けた。</p> <p>②昨年度のWifi整備を受けて、機器等の調整、スタッフの研修等を行い、これらの設備の安定的な運用を開始。ネットアクセスや多言語解説が可能になるなど、館内環境・展示解説を改善。</p> <p>③引き続き、園内の整備・清掃を進め、心地よい空間を創出。ネットでのイベント情報等の告知に加え、展示民家解説動画の配信を開始。</p> <p>（今後実施予定の取組）</p> <p>①展示品解説動画を回数、内容ともに充実させる。</p> <p>②利用の促進に向けて、さらなる利便性の向上や世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」や近つ飛鳥の遺跡紹介、博物館や展示品の解説内容の充実を図る。</p> <p>③来館者へのホスピタリティーの向上。快適空間の創出によるリピーターの確保。ネットでのイベント情報の告知や展示民家解説動画のさらなる配信。</p>

## ○令和4年度の実施方針




調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①弥生文化博物館利用者CS満足度調査 ②近つ飛鳥博物館利用者CS満足度調査 ③日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ④発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①弥生文化博物館利用者へのアンケート ②近つ飛鳥博物館利用者へのアンケート ③日本民家集落博物館利用者へのアンケート ④発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①弥生文化博物館の来館者 ②近つ飛鳥博物館の来館者 ③日本民家集落博物館の来館者 ④発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①約400名 ②約400名 ③約400名 ④約200名	①イベントおよび展覧会開催時 ②イベントおよび展覧会開催時 ③秋季期間 ④現地公開開催時（年2回）

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
-----	------------------

[1]

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
弥生文化博物館入館者数	人	19,000	14,794	▲4,206

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	臨時休館の延長	新型コロナウイルスの第4波の感染拡大に伴って発出された緊急事態措置に伴う臨時休館が、当初の4/25～5/31から6/20まで延長されたことにより、入館者数が減少した。 （下記想定値は、延長された休館期間におけるH29～R1年度の実績平均、ならびにR2年度実績に基づいて算出）						
	項目名	入館者数	R3当初想定値	1,207人	実績値	0人	差	
②	各種イベントの休止・縮小に伴う入館者数の減少	新型コロナウイルスの第5・6波の感染拡大に伴って発出された緊急事態措置・まん延防止等重点措置によって人流抑制を余儀なくされ、特に例年開催していたワークショップイベントを休止した8・11・2・3月、ならびに企画展を上旬に閉会した9月の入館者数が大幅な減少となった。 （下記想定値は、H29～R1年度における上記各月の実績平均、ならびにR2年度の実績に基づいて算出）						
	項目名	入館者数	R3当初想定値	10,202人	実績値	7,263人	差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

R4年度は施設改修工事のために上半期のみ開館となり、考古学関連の展示は南関東地域の弥生文化を取り扱う夏季特別展1本となるが、報道機関やHP・SNSを通じて開催を広く周知するとともに、R3年度から本格的に始めた展示解説動画の制作・配信を引き続き実施し、展示会への集客を図る。加えて、館長と来館者が自由に語り合う場として「弥生文化サロン」を開設し、来館者の新たな掘り起こしとともにリピーターの確保に努める。

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
-----	------------------

[2]

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
日本民家集落博物館入館者数	人	21,900	17,634	▲4,266

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	臨時休館の延長	新型コロナウイルスの第4波の感染拡大に伴って発出された緊急事態措置に伴う臨時休館が、当初の4/25～5/31から6/20まで延長されたことにより、入館者数が減少した。 （下記想定値は、延長された休館期間におけるH29～R1年度の実績平均、ならびにR2年度の実績に基づいて算出）						
	項目名	入館者数	R3当初想定値	1,235人	実績値	0人	差	
②	団体利用の減少やイベント縮小による入館者数の減少	例年多くの入館者を得ている4月が新型コロナウイルスの第4波感染拡大への警戒から大幅減となったこと（臨時休館前・▲1,223人）、臨時休館から再開後も外出自粛と人流抑制が要請される中、学校団体による校外学習（▲542人）を始め、ジュニア自然大学（▲615人）やライフスポーツ財団助成事業「こども囲碁クラブ」（▲399人）といった団体利用が振るわず、加えて、毎年10月に開催している恒例のワークショップイベントについても、大々的なPRを見合わせ、規模を縮小しての開催となったため、参加者が減少（▲352人）した。 （下記想定値は、H29～R1年度における各項目の実績平均、ならびにR2年度の実績に基づいて算出）						新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意しつつ、展示民家を利用した企画展・市民展示や特別公開、季節行事やコンサート、参加体験型の事業等を積極的に実施するとともに、これらの開催イベントについて、季節ごとに作成するリーフレットやHPで広報を行うほか、季節の花々や移り変わる園内の様子をFacebookで、国・大阪府の指定文化財である展示民家の特徴・価値を制作動画でそれぞれ発信し、日本民家集落博物館の存在とその魅力を府民に広くPRする。
	項目名	入館者数	R3当初想定値	8,472人	実績値	5,341人	差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
-----	------------------

[ 3 ]

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
当期経常増減額	千円	▲130,487	[▲173,931]	[▲43,444]

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	埋蔵文化財調査事業の事業収益の減少	当初の想定より市町村事業については受託事案件数の上積みが見られたものの、結果的に年度前半の受託事業量が少なく、受託事業収入が伸び悩んだため。						<p>中部調査事務所に関わる減価償却費等の増額が継続し、会計上の収支相償は引き続き困難な状況であるが、令和4年度の埋蔵文化財調査事業は、現在の調査体制において対応できる上限に近い事業量が予定されており、これらを確実に受託に繋げるとともに、調査の実施に当たっては、支援業者の測量技術等を援用しながら効率よく進め、同時に若手職員に対する調査技術の継承を図っていく。</p>
	項目名	当期経常増減額	R3当初想定値	▲130,487	実績値	[▲152,019]	差	
②	展示民家大規模改修に伴う所有者負担額の資産取崩しと事業収入不足による借入金の発生	日本民家集落博物館事業において、国指定重要文化財である展示民家の大規模改修に伴う所有者負担額の一部について特定資産からの取崩し（▲17,127千円）、加えてコロナ禍の影響等による入館料等の事業収入不足のために他会計からの借入金（▲5,641千円）が生じたため。						<p>マスメディアやHP・SNS等を通じて、博物館の存在と魅力を広くPRして認知度を高め、来館者と施設利用者の増加を図ることにより、会計内の収支相償を目指す。</p>
	項目名	当期経常増減額	R3当初想定値	0	実績値	[▲22,064]	差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
-----	------------------

[ 4 ]

成果測定指標	単位	R 3 年度目標値	R 3 年度実績値	目標値との差
賛助金・寄附金	円	5,900,000	5,647,430	▲252,570

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	クラウドファンディングの目標額未達成	国指定重要文化財「信濃秋山の民家」の保存修理事業に伴って実施したクラウドファンディングにおいて、同様の文化財保存修理での先行実施例の目標設定最高額を参考に目標額を <b>5,000,000</b> 円に設定したが、地域の代表的な文化財である先行例に比して文化財自体の知名度が低く、序盤から中盤においてプロジェクトへの認知が不十分で伸び悩んだことから、最終的に目標額に到達しなかったため。						日本民家集落博物館の認知度を高め、当法人の置かれている状況を理解してもらうため、法人ならびに日本民家集落博物館のHPを見やすいものに改めるとともに、SNSを開設してこれを活用することで、展示民家の保存修理実施（当面は実施計画なし）の意義について理解を深める。
	項目名	寄付金	R3当初想定値	5,000,000	実績値	4,535,000	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	



■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
発掘調査の現地公開・セミナー等の参加者数	人	14,900

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
発掘調査の現地公開・セミナー等の実施件数	件	48

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>令和3年度大阪府包括外部監査において、博物館の来館者数には当法人が実施したスポット展示を目的としない来館者も含まれるため、現地公開や講演会などと比較すると間接的な指標ともいえ、様々な取り組みをより適切に評価するため、最重点目標の成果測定指標について、集計方法の見直しを検討すべきであると指摘を受けた。これを踏まえ、本事業の数値目標を参加者数で示すことを見直し、今後は実施件数に改めるため。</p>
----------------------	---

〔2〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	
----------------------	--

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
学校への営業件数	件	277	250

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>令和元年度の実績、ならびに令和4年度は弥生文化博物館が施設改修工事により半年間休館となることを踏まえ、弥生文化博物館90件、近つ飛鳥博物館95件、日本民家集落博物館65件を目標値として設定。</p>
-----------------------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
オンライン動画の制作・配信数	件	25	20

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>令和4年度は弥生文化博物館が施設改修工事に伴い半年間休館となり、かつ考古学関連の展示会が夏季特別展のみとなること、ならびに各博物館の事業計画と令和3年度の配信実績を踏まえ、弥生文化博物館4件、近つ飛鳥博物館12件、日本民家集落博物館4件の解説動画を制作し、HPやFacebookを利用して配信する。</p> <p>なお、弥生文化博物館においては、臨時休館中に府内6か所の市教委・資料館で出張展示会を行い、あわせて数か所の大規模商業施設において資料展示・ワークショップを実施するなど、博物館の認知度を高め、次年度以降の来館者増につながるよう、出かける博物館事業を積極的に展開する。</p>
-----------------------------------	--

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m	3,160	2,230

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>令和4年度の発掘調査業務は令和3年度比で15%増となるが、小面積ながら掘削深度が深いために調査員の多数動員が必要となる事業が全体の4割以上を占めることから、調査予定地の総面積は23,260㎡に留まり、また調査員数の関係から新たな受託がほとんど見込めないため。</p>
-----------------------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
賛助金・寄附金	円	5,647,430	1,200,000

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>令和4年度は、令和3年度に国指定重要文化財「信濃秋山の民家」の保存修理工事に伴って実施したクラウドファンディングを行わないため、中期経営計画に基づき、賛助金1,000,000円、寄付金（募金）200,000円を目標額とする。</p>
-----------------------------------	---